

講評「調べる学習コンクール」11/25

こんにちは。受賞おめでとうございます。審査員を代表して、2つお話をします。

1つ目は、お勉強のお話です。受賞された皆さんは、お勉強は得意ですか？ 保護者の皆様は「うちの子は、こういうのは得意だけど、お勉強はちょっと…」なんて思っていないですか？ それは間違いですね。

いわゆる「学力」って何？というお話です。文部科学省がちゃんと定義しています。

学力とは「学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」ということです。ちょっと難しいですね。一言で言うと、「課題を解決する力」です。まさに、今回の調べる学習コンクールが目指しているものです。

話を広げて、世界に目を向けると、今も新型コロナウイルスやウクライナへの軍事侵攻の問題など、世界中の人々が叡智を集めて、解決しようと努力していますが、まだまだ乗り越えることができません。こういうことを解決できる力こそ、学校でいうところの学力なんです。

イメージしている学力とは、ちょっと違うかも知れませんが、ドリルやテストの点数では測れない部分です。確かな学力とは、そのもっと先を目指しています。

もちろんそのためには、まずは文章を読んだり書いたり、計算をしたり、様々な知識や技能を身に付ける事が基本となります。でも、目指すべき学力は世界で役に立つ力、未来の世界で圧倒的に役に立つ力ということです。

今日、受賞されたみなさんは、その高い学力に、一番近い所にいると思います。

それはなぜか？　それが2つ目のお話になります。

今回、審査をされていて、受賞されたみなさんに共通していることがあります。2つお話をします。

1点目は、身近な生活の中で「なぜだろう」「不思議だなあ」という、素朴だけれど、実は大人も気付いていない、鋭い疑問から始まっていることです。

テレビで芦田愛菜さんが出ている「博士ちゃん」という番組を知っていますか？　その博士ちゃんたちは、いつも、専門家の方々がたじろいてしまうような鋭い質問をしていますね。この「問い」が大事です。みなさんのテーマも「追求できる深さがある問い」ばかりでした。

2点目は、その自分の問いにして「こうかな」「ああかな」と、予想することから始めて、自分がどのようなことを、どのように調べたいのか、自由な発想で、様々な調べ方をして、深めていることです。

具体的には、まず図書館に行って話を聞いたり、たくさん本を並べて調べたりしています。そして、本で調べたことをもとに、そこからスタートして、実験や観察をしたり、インタビューをしたり、様々な手立てで、多様な情報の中から解決策を見い出しています。

そして、自分なりの納得解を見つけた後に、もう一度図書館に行って、自分の考えに間違いはないか、もっと他の視点がないかなど、本に戻って確かめています。

さらに最後に、自分が何を、どのように学んだか、どんなときにどう感じたのか、どのような発見や学びがあったのか、振り返って、自分にとってどんな意味や価値があったのかをしっかりとまとめています。凄いです。

本当に素晴らしい作品ばかりです。ぜひ、この学びを続けて、これからの未来を築く人になってください。